

平成 18 年度第 1 回次世代育成協議会概要

平成 18 年 6 月 30 日 (月) 午前 10 時
教育センター 大会議室

1 開会

区長あいさつ

新宿区は先行自治体としてこの計画を策定してきた。青少年問題協議会を発展、統合化し次世代育成協議会とした。そして「子ども育成部会」「子育て支援部会」「地域・環境部会」の三つの部会に分かれ、新宿が子育てしやすいまちを目指していくにはどうしたらよいか、昨年度は課題を抽出し協議してもらってきた。

本年は、新宿のまちの子どもの様子の情報交換と課題の検討をお願いしたい。1 年目の協議を踏まえて総合的に協議していただきたい。地域全体で支えあう、新宿にふさわしい都市型のコミュニティーとしていきたいので、よろしくお願いします。

2 議題

(1) 報告事項

- ア 「新宿区次世代育成支援計画の進め方について」資料 1
- イ 「新宿区区民会議の提言について」情報提供
- ウ 「平成 17 年度新規事業の実績報告について」資料 2
- エ 「企業への次世代育成支援アンケート結果について」資料 3

事務局

ア～エについて資料に沿って説明

(2) 発言

委員

資料 2 の幼稚園と保育園の一元化だが、利用した親子がどのように感じたかが大切である。ここでは行政側の達成率になっている。

会長

この書きかたについては達成率になっていない。在園児のどのくらいの人が利用したかであって、通常達成率と言うのは、幼稚園の場合には、たとえば、預かり保育や給食については希望する人たちの人数があって、そのうちどのくらいの人が利用して、利用した人の満足度はどのくらいか。そういうことだと思う。私が、聞いている状況では、当初、行政側が見込んだ予想より多かったということである。

そして、ご利用いただいた皆さんの満足度については、かなり評判は良かったと把握している。

事務局

幼保連携の中町の場合、安定して増えてきている。給食は幼稚園児保護者の方がどのくらい要望するのか違いもあるので、利用率で出している。

委員

ゆったりーのにも、関わっている。一時保育ではないが、親子が来てくつろげる場としている。アンケートは数字だが、女性が何を助けて欲しいかである。

委員

資料 2 の確かな学力で、少人数、外国人講師をモデル校に配置しているが、自分の子が行っている学校では算数だけ少人数制になった。2つのクラスにわけ、ひとつは担任の先生、ひとつは講師であった。しかし、クラスの選択が自由なため、講師のクラスは分かりづららしく、分かりやすいもうひとつの担任のクラスに子どもが移ってしまい、今では担任クラス 35 人、講師のクラス 2 人になってしまい、子どもは戻ってこなかった。数字だけでは目隠しされてしまう。中味に本当に満足されているか。外国語も話せるだけで講師を選んでいるといわれている。

会長

今まで行政は、予算を使えたら達成という感じであった。こういう達成の評価の方法が浅い。どういう目標値を持つかが大切である。行政の文化を変えていく必要がある。時間がかかるが課題としていく。

(3) 協議事項

次世代育成支援対策交付金（ソフト交付金）対象事業の評価及び改善について

事務局

次世代育成対策交付金の説明。資料 4 の説明

会長

只今の、次世代育成対策交付金について、評価と改善といくことで、ご意見を願います。

委員

病後児保育について、処遇職員数が非常勤保育士 1 名、常勤看護師 1 名となっているが、現在は、私の保育園では、常勤保育士 1 名が入って、非常勤保育士 1 名、常勤看護師 1 名の保育体制をとっている。

委員

ネグレクト家庭に食事をさせる活動を 4 家庭でしている。子どもが学校に行かなかったことがあった。児童館の先生も学校の先生も 2 回ずつくらい訪問したが連絡がとれなかった。夕方、遊んでいるところを見つけ、食事をしながら子どもと話をしたが、理由は、眠くて寝ていたということだった。仕事が終わったあとしか情報を受けることができない。もっと踏み込んだ情報提供をして欲しい。ネグレクト家庭に食事をさせる活動を事業としてサポートできないか。

会長

虐待防止ネットワーク関連と考えてよいか。ご意見として伺っておく。

委員

子どもの居場所づくりと書いてあるが、スクールコーディネーターについて文面では評価しているが、いろいろな居場所が子どもを取り合いしている。本当にこのような評価をしてよいのか。

食育について評価しているが、親達の話として、夏休みになって給食がなくなったらどうしたらいいかとの発言も聞く。評価してよいのか。

会長

スクールコーディネーターが中心としてやっている事業と考えている。食育は保育園について、保育園の調理、栄養士、保育士が研修として食育に取り組んでいるかで、親に対してとの意味と違う。取り組み始めているところで、保護者には早寝、早起き、朝ごはんをと呼びかけている。

増田先生

第三者評価をやっているが、働く職員の評価がある。「ゆったりーの」に月に1度、学生と一緒に係わっている。親子がいい表情で過ごしている姿をみている。そのためには、スタッフの存在がとても大きい。そのスタッフはボランティアでやっているのも、継続性など課題がある。全体的な事業として一生懸命取り組んで評価もできると思うが、内側から見たところに課題はあるのではないか。ファミリーサポートについては、提供会員の比率が適切か、質がどうか。今までもトラブルがなかったとも思えない。提供会員へフォローアップがどうなっているか。こういうスタンスが評価で抜け落ちている。

会長

事業の評価をどう評価していくか、「ゆったりーの」であれば、施設を運営しているスタッフの側の自己評価があって、第三者評価がある。ファミリーサポートについても、提供会員に、最初のところで研修を行っているが、トラブルが出てきている中で、個別対応や、もっとブラッシュアップして行くための知識・技術・情報の交換・研修体制とか、そういったところを見ていくという評価、事業評価、改善の取り組みというところでは、行っていく必要がある。今年度について、現時点で、改善できるところは改善をし、運営主体の方に今年度どうやっていくか課題を聞いてもらって書き込むことではどうか。

委員

公立保育園でも長時間保育をおこなってきたが、12時間以上保育園にいる子もいる。延長保育をしているとき、掃除をするときなど子どもたちを他の部屋に動かしておこなっている。ことぶきや児童館が使えればと園長会で話している。一つの建物の中であるので、取り組んでいくことが必要である。

会長

建物をトータルで考えてやったらどうか。意見を受け止め考えていく。

委員

児童館に日曜祝日シルバー委託しているが、子どもを連れていくと対応の差がある。遊んでくれる人もいるが、事務所の中にいる。ある時「片付けないなら、使わせない」と言って怒っていた。怒るのは良いが、「使わせない」はおかしい。運営する側の質という点でどういうことをしてくと良いか。

会長

区の施設は常勤職員だけが運営するのではない。アルバイトや地域の方々に助けてもらっていくことが必要である。その施設のあり方、子どもへの関わり方など、お互いに情報を共有し、いろんな研修、スキルアップなどが、重要だと思っている。今後の参考としていきたい。

委員

ひろばづくり、学校を活用した子どもの居場所づくりについて、もっと具体的に書いていったほうが良いのではないか。

また、ファミリーサポートを、実際利用している人は多い、会員数について増加していると評価してよいのではないか。実質が反映される資料になり、国に出すのならこういう報告にして欲しいと思う。

委員

最初、居場所づくり事業に、学校、PTA、スクールコーディネーターも、否定的であったが、3年間やってきてうまくやっているところもある。しかし実際には、学校が気を遣って、それほどPTA等が動かなくてもできることをやっているところもある。肯定的なことだけでなく、課題も評価していくことが必要ではないか。

会長

文部科学省と厚生労働省とで補助金の出所が違う。国の省庁の縦割り、居場所事業自身は、文部科学省であるが、これはソフト交付金で厚生労働省である。ソフト交付金の対象ところを整理し、頂いたご意見を反映できるかお任せ願いたい。現実に即したもので、本当に効果のあるもの、多くの人に関われるものにして行くことが大切、総合していいのではないかと思うが。

委員

保護者が病気で保育園に入園してくる場合、保健センター、児童館などから子どもがどうなっているか聞きにくる。地域の中にいろんな部署があるが、情報を共有していく必要がある。

事務局

同じ区役所の中なので、情報を共有し、連携がとれるよう改善していきたい。

会長

ソフト交付金についてご意見がある場合、メール、FAXで来週末までに送信していただき、まとめて国に報告していきたい。

(4) 今年度の部会進め方について

各部会長から今年度の部会の進め方について報告後、各部会に分かれ協議した。

第一部会会長（坂内先生）

子どもの自立を視野に入れた子育て支援・教育の取組みについて

第二部会会長（増田先生）

個別ニーズや育児への負担感の強い親への支援について、実践報告をもとに行
政・区民・地域の役割を考える

働き方の見直し

第三部会会長（福富先生）

育成活動を中心に地域活動を活性化する具体策を協議

親への働きかけ

以上のことを協議する。